



【特集1】皆で守ろう！小林の宝 来年のホタルの光を守る 取り組みはもう始まっています

ホタル観賞の名所として知られる出の山公園。毎年5月～6月に光り輝くホタルを守るために、1年を通してさまざまな保護活動を行う人たちがいます。しかし、今その手が足りていない現状があります。輝きを未来につなげるために、私たちにできることを一緒に考えてみましょう。

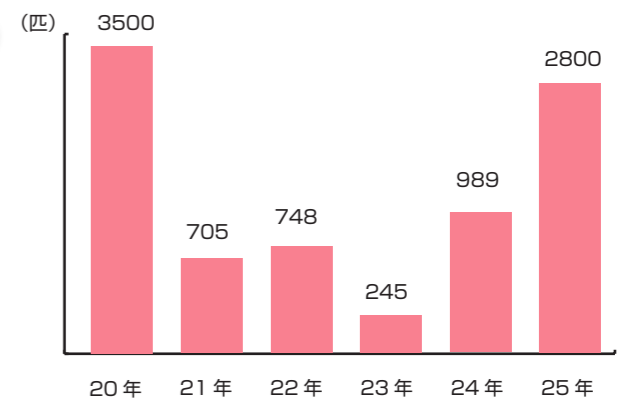
ホタル観賞の名所として 知られる出の山公園

出の山公園は、数万匹のゲンジボタルが飛び交い、その光景は「山が動く」とまで言われたホタル観賞の名所。自然のままに保護され、数は増減を繰り返してきましたが、平成21年度にその数は激減（下の※表を参照）。しかし、地道な保護が続けられ平成25年には2800匹まで回復しました。

生態を調査・研究し 最適な環境を整備する

ホタルの調査を行う「宮崎自然環境調査研究会」は市の委託を受けて、平成4年から、水中の幼虫、上陸する幼虫の数や気温・湿度・水温などを計測しています。その調査結果から、飛翔数や飛翔時期を予測。長年の研究の成果をホタルに最適な環境の整備などに役立てています。これらの調査から、平成21年にホタルが激減したのは、環境の変化や光害、エサであるカワニナの減少などが原因であることが分かりました。また、ホ

（※表）ホタル水路の最大飛翔数
平成25年度ホタル発生予測調査報告書より



【右】ホタルのエサであるカワニナ。【左】ホタルは集団産卵する。(写真提供=宮崎自然環境調査研究会)

今年の清掃活動には、100
人ものが参加しました



車のライトなどの強い光を遮るために寒冷紗を設置



出前講座で小学生にホタルの生態について教えています

光を守るため、できること から始めましょう

この他にもさまざまな保護活動が行われています。ホタル水路へ光が入らないようにする寒冷紗の設置、まつり前に行われるボランティア清掃作業、市内小学校での出前講座など。こういった地道な取り組みもホタルの保護につながっています。調査員の永井さんは「ホタルを守るために、川を汚さないようにする、ごみを捨てている人がいたら注意してほしい」と呼びかけています。ホタルの光を守るために、まずは私たちにできることから始めましょう。

調査員に話を聞きました

宮崎自然環境調査研究会
永井 彪さん（真方）
1年を通じた保護でホタル
を守ることができる



約20年前から、ホタルの調査を始めました。最初のころは何もかもが試行錯誤。毎晩のように出の山に通いました。徐々に、その成果が出て雨の日の夜に幼虫の上陸が多く見られることや卵の産卵場所などが分かってきました。ホタルが飛び光るのは5月から6月の約1カ月の間ですが、1年を通して保護や環境整備をしないとその美しさを観ることはできません。しかし現在、調査を行う人の数が足りていません。興味のある人は一緒にしてみませんか。

ホタルの保護活動に参加しませんか

宮崎県自然環境調査研究会では、ホタルの調査員を募集しています。
◆調査内容=幼虫の生育数調査、幼虫上陸数調査、ホタルの飛翔数調査、ホタル生態調査、気象調査、エサ調査など
※調査は難しい作業ではありません。

- ◆募集期間=随時
- ◆応募方法=電話で申し込みください。
- ◆申・問 商工観光課 Tel.23-1174



ホタル豆知識

Q1 ホタルはなぜ光る？
ホタルの光は求愛行為。オスからメスへのプロポーズのために光っていると言われています。

Q2 光る間隔は？
ゲンジボタルは、西日本と東日本で光の間隔が違います。西日本では、2秒に1回、東日本では4秒に1回のペースで光ります。

Q3 いつ飛んでるの？
飛び交うピークが3回あります。1回目は20時～21時、2回目は23時前後、3回目が2時前後です。

Q4 いつから光ってる？
ゲンジボタルは、卵、幼虫、さなぎ、成虫と一生を通して光っています。



卵からサナギまでは外敵から身を守るために光っていると言われています。